（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	Viento			
○保護者評価実施期間	2026年　3月　1日	～	2026年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22名	（回答者数）	19名
○従業者評価実施期間	2026年　3月　1日	～	2026年　3月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9名	（回答者数）	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　5月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	不登校児童の相談援助、安心できる居場所の提供、保護者対象のペアレントトレーニング、保護者及び学校と連携しての不登校支援等の経験が豊富です。 不登校の状態から就労や学校復帰、児童に合った形での環境調整、社会復帰の実績があります。	子供たち個々の特性、精神発達段階に応じて、心理的安全性の高い環境下で必要な体験や葛藤、他者を知ること、自己選択、自己決定の機会を大事にしております。 主体的に意思決定し行動、振り返る経験が自己肯定感を膨らませ、自分や他者を信頼する気持ちが学校復帰、社会参加につながります。	職員や子ども達に関わる大人が、自分にも他者にも、正直な心で真摯に向き合うことが大事だと考えています。人と人とが安心して繋がることができれば、自然と心も体も健やかに成長していくことができ、何が自分にとって大切で幸せなことなのかを感じ取ることができるようになります。
2	活動は児童の興味・関心を基軸に構成されており、週に一度は児童が自ら活動を提案する機会を設けています。自ら提案した活動に取り組むことで、児童は自律的にルールを守り、時間管理を意識しながら行動する力を身につけています。加えて、児童が創作した遊びを活動として実施することもあり、創造性と社会性の育成が見込まれます。	提案用紙を設置しています。設置用紙の中身では、希望する活動には何が必要なのかもかけるよう工夫し子どもたちが考えて企画出来るように工夫しています。 長期休みなでは、時間をかけてできる活動を子ども達が主体的に計画し参加できるよう、事前に話し合う機会を作りながら実施をしています。	今後も児童が自分らしさを実感し主体的に発信ができ、成長できるような活動を企画します。 そして、互いの興味・関心を互いに認め合い楽しむことが出来るような集団を目指します。
3	未就学児から高校生までの児童が共に過ごすことで、異年齢ならではの相互作用が生まれています。年上の児童が自然と年下の児童を気遣い、年下の児童は年上に憧れを抱きながら学びを深めていきます。こうした関係性の中で、児童同士が互いに刺激を与え合い、協力しながら成長する場が形成されています。 下の児童との関わりを通じて、かつて自身が経験し切れなかった課題に改めて向き合う機会ともなり、自己成長の再構築を促す環境にもなっています。	活動する時など年下の児童が手助けを必要とする場面ではヘルプの声掛けをしています。 児童同士で摩擦が起きた場合には、職員が間に入り個別または児童同士で話し合いをもち、自分自身、相手の気持ちを確かめ合って交流できる環境づくりを工夫しています。	多機能型だから出来る異年齢の特色を活かした交流をおこない、子ども達同士で学び・考える療育を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別面談などで職員と保護者とのコミュニケーションは取れているが、保護者会といった保護者同士のコミュニケーションの場が作れていないです。	面談やイベント案内の中で保護者との日程調整（時間帯）が厳しい現象があります。	開催月の早めの計画、案内の告知の工夫など改善できる点を話し合い実施いたしす。祖の中で、保護者のニーズの確認もおこないイベントなどを活用し保護者が参加できる機会を増やしていきたいです。
2			
3			